

# 漁海況月報

平成 15 年 6 月 1 日

No. 6

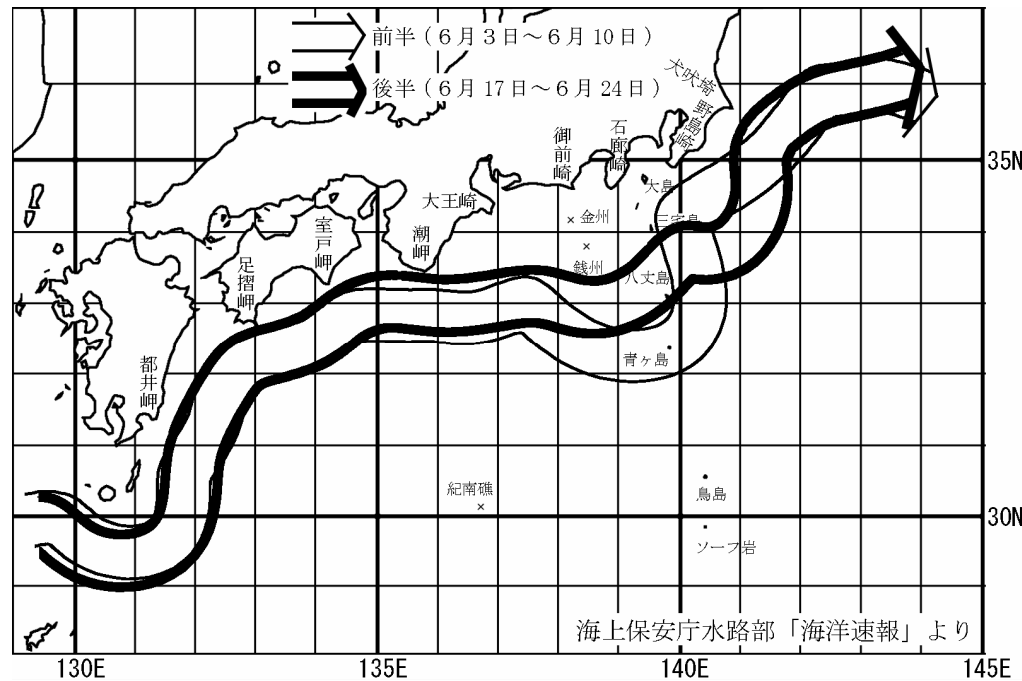
～6月30日

静岡県水産試験場

(電話 054-627-4815)

静岡県水産試験場伊豆分場

(電話 0558-22-0835)



## [黒潮流路]

6月上旬～中旬、黒潮は駿河湾沖合から伊豆海嶺にまたがる冷水渦を迂回し、房総半島に向かうC型であった。

下旬、冷水渦は、伊豆海嶺の東側に移動・縮小した。黒潮は遠州灘沖の33°～33°30'N付近を東進、三宅島と八丈島の間を流去し、房総半島沖の小冷水渦を迂回するD型になった。

## [県下沿岸域]

県下の定地水温は、相模湾側では20～22℃、駿河湾東部では20～22℃、駿河湾西部では20～22℃で経過し、平年よりも高めであった。相模湾側の昇温が著しく、平年に比べ1～2℃高めとなった。

## [竿釣近海カツオ]

県内主要5港（沼津、清水、焼津、小川、御前崎）における近海カツオの水揚量は431トンで前年同期の1.8倍であった。魚価は250円/kgで、前年同期を下回った。

中型竿釣船の記録(QRY)及び御前崎市場での調査によれば、6月の漁況はおおむね以下のとおり推移した。

上旬：常磐沖では34°～37°N、146°～149°E(表面水温19～23℃)と36°～38°N、144°～146°E(表面水温17～23℃)に漁場が形成され、小、極小カツオを主体に漁獲した。静岡県近海では、34°～34°30'N、137°30'～139°30'E(表面水温21～22℃)で漁場が形成され、小・極小(体長45cm、42cmモード)カツオを主体に漁獲した。

中旬：常磐沖では34°～37°N、147°～153°E(表面水温19～22℃)に漁場が形成され、小、極小カツオを主体に漁獲した。静岡県近海では、34°20'N、138°20'Eで極小・小(体長42cmモード)カツオの漁獲が見られた。

下旬：常磐沖では35°～39°N、143°～148°E(表面水温19～24℃)と37°～39°N、152°～154°E(表面水温20～22℃)に漁場が形成され、小、極小カツオを主体に漁獲した。静岡県近海では中型竿釣り船の一部と小型竿釣り船が操業しており、極小・小(体長42cmモード)カツオを主体に漁獲した。

2003年6月

定地水温の旬平均値(℃)

(下段は偏差)

期 間	伊東	稲取	下田	雲見	沼津	焼津	地頭方
上 旬	21.4	21.0	20.9	21.6	22.3	22.0	21.5
	1.6	1.9	1.5	1.1	1.6	1.5	1.3
中 旬	22.0	21.4	20.8	21.6	22.3	21.7	22.1
	1.6	1.8	1.0	0.4	0.9	0.6	1.2
下 旬	22.2	21.5	21.3	22.1	22.7	22.7	22.3
	0.9	0.9	0.9	-0.1	0.5	0.7	0.5
月平均	21.8	21.5	21.6	21.7	22.4	22.0	22.0
	1.3	1.5	1.2	0.4	1.0	0.9	1.0

竿釣近海カツオ水揚量 (県内主要5港)

期 間	水揚量 (トン)	水揚 隻数	水揚量/隻 (トン)	平均単価 (円/kg)
15年6月上旬	237	54	4.4	258
	144	43	3.3	219
	50	13	3.8	296
15年6月計	431	110	3.9	250
14年6月計	243	75	3.2	507
13年6月計	331	59	5.6	314

## [まき網]

静浦港では、マイワシは2.2トン水揚され、平年同期(過去5か年平均:0.6トン)の3.4倍と好調であった。カタクチイワシは631.1トン水揚され平年同期(214.9トン)の2.9倍と好調であった。

伊東港では、マイワシは水揚がなかった。カタクチイワシは83.8トン水揚された。  
 小川港では、マイワシは3.9トン水揚され、平年同期(5.3トン)の74%と低調であった。カタクチイワシは97.6トン水揚された。

**[サクラエビ船曳網]**

平成15年度春漁は6月3日夜で終漁となった。6月は2日の操業で107トンの水揚げがあった。漁場は5月下旬に引き続き、由比～田子の浦沖に形成された。  
 漁期を通してみると、水揚げ量は1,443トンと昨年春漁と比べて138トン多く、水揚金額は32億5千万円と、同様に3億8千万円上回った。

サクラエビ水揚量

期 間	水揚量 (トン)	日数	1日1か統当り (kg)	漁 場
平成15年6月 上旬	107	2	平均 889	三保～田子の浦沖
中旬	-	-	-	-
下旬	-	-	-	-
平成15年6月 計	107	2	平均 889	-
平成14年6月 計	118	2	平均 981	戸田～土肥沖
平成13年6月 計	69	1	平均 1,153	蒲原～大瀬崎沖

**[サバたもすくい棒受網]**

小川港に水揚げされたサバ類は前月の水揚げ量(838トン)の約1.2倍の1,038トンで、ほとんどがゴマサバであった(マサバは119kg漁獲された)。漁場は三宅島近海及び銭洲に形成され、24～43cmと体長範囲の広い大きさのものが漁獲された。1kg当たりの平均単価は棒受網では約77円となった。

小川港 サバ類(たもすくい・棒受網漁業)水揚量

期 間	水揚量 (トン)	日数	延隻数	1隻当り (トン)	漁 場
平成15年 上旬	290	5	20	14.5	三宅、銭洲
6月 中旬	480	5	29	16.5	三宅、銭洲
下旬	268	4	16	16.8	三宅、銭洲
計	1,038	14	65	16.0	-
平成14年6月	838	14	58	14.4	三宅、三本、高瀬、神津
平成13年6月	2,422	17	147	16.5	三宅、三本、高瀬、銭洲

**[定置網]**

平成15年6月、伊豆半島東岸大型定置網8か統(伊豆山、古網、赤石、川奈、富戸、赤沢、北川、谷津)における水揚量は583トンであった。1漁場当たり水揚量72.9トンは、前年27.4トンの2.7倍、平年値(昭和57～平成14年平均値)46.0トンの1.6倍であった。  
 魚種別にみると、サバ類263トン(前年の18.5倍、平年の3.2倍) マアジ96.7トン(前年の2.4

倍、平年の1.3倍) マルソウダ84.7トン(前年の138倍、平年の9.5倍) カタクチイワシ62.0トン(前年の2.5倍、平年の1.4倍) イサキ13.1トン(前年の2.6倍、平年の2.6倍)の順に多かった。

サバ類は伊豆山と谷津を中心にゴマサバ主体に入網し、6月のサバ類の漁獲量としては昭和57年以降で2番目に多かった。また、大型のマサバ(尾叉長の中心38～43cm)が下旬に43トンまとまって漁獲され、特に川奈と谷津で特異的に入網し、両漁場を合わせるとマサバ全漁獲量の9割を占めた。マアジは川奈と北川を中心に入網し、尾叉長の中心は17～19cmであった。マルソウダは赤石と北川を中心に入網し、尾叉長の中心は33～36cmであった。

漁場別水揚量は、マルソウダの漁獲が多かった北川(111トン)、サバ類の漁獲が多かった谷津(104トン)、マアジ及びサバ類の漁獲が多かった川奈(89.5トン)の順であった。

**[シラス船曳網]**

1日1か統当り水揚量は、駿河湾で79kg、遠州灘で295kgだった。主要6港平均では254kgと前年同期(478kg)の53%、平年同期(過去5か年平均:469kg)の54%であった。6月の総水揚量は551トンと、前年同期(1,391トン)の40%、平年(1,223トン)の45%に過ぎず、先月に続き不漁となった。特に静岡での不漁が目立ち、6月の水揚量は10kgとほとんど水揚がない状態だった。平均単価は685円/kgと平年同期(579円/kg)に比べて高めに推移した。

シラス水揚量(主要6港)

漁 港	水揚量 (トン)	日数	延統数	平均漁獲量 (kg/統/日)	平均単価 (円/kg)
新 居	67.8	19	310	219	679
舞 阪	320.0	19	863	371	628
福 田	113.1	16	420	269	775
御前崎	19.7	18	192	103	1,109
吉 田	30.1	17	333	90	1,011
静 岡	0.0	3	28	0	4,050
平成15年6月計	550.7	-	2,146	(平均)257	(平均)703
平成14年6月計	1,391.0	-	2,907	478	755
平成13年6月計	865.3	-	2,706	320	699

**[調査船の動向]**

- 富士丸  
6月13日～ 東沖カツオ・ビンナガ調査(18日間)
- 駿河丸  
6月2～4日 地先定点観測(駿河湾・遠州灘・伊豆)(3日間)  
6月5～6日 金洲の瀬にてサバ標識放流調査(2日間)  
6月9日 駿河湾内にて静岡の深層水調査(2日間)  
6月12～13日 三宅島・ヒョウタンの瀬・高瀬にてサバ漁場調査(2日間)  
6月16日 駿河湾内にて公共用水域水質(1日間)  
6月17～18日 駿河湾内にてサクラエビ調査(2日間)  
6月23～24日 天竜沖・波勝崎沖にてマリンロボ調査(2日間)  
6月25～26日 駿河湾内にてサクラエビIKMT調査(2日間)